

外国語教育メディア学会 (LET) 第 94 回 (2019 年度秋季) 中部支部研究大会



プログラム

日時 2019 年 12 月 14 日 (土) 9:30-17:00
会場 静岡大学 浜松キャンパス 情報学部 2 号館
〒432-8011 浜松市中区城北 3-5-1

研究大会実行委員長 宮崎 佳典 (静岡大学)
実行副委員長 大瀧 綾乃 (静岡大学)

主催 外国語教育メディア学会 (LET) 中部支部
後援 静岡大学情報学部
静岡県教育委員会・浜松市教育委員会



問い合わせ先
外国語教育メディア学会 (LET) 中部支部事務局
支部サイト (<https://www.letchubu.net>) の
「お問い合わせと原稿送信」からお問い合わせください
Twitter: @LETChubu
研究大会サイト: <http://bit.ly/LETG2019Fall> |



日 程

9:30 受付 【1階ホール】

9:30 展示 【1階ホール】

10:00-10:10 開会式 【1階メイン会場（情13教室）】

司会：大瀧 綾乃（静岡大学）

主催者挨拶：高橋 美由紀（中部支部支部長）

開催校挨拶：近藤 真（静岡大学情報学部長）

10:15-11:40 講演 【1階メイン会場（情13教室）】

司会・講師紹介：宮崎 佳典（静岡大学）

講師：石井 雄隆（千葉大学）

「オープンサイエンス時代の外国語教育研究」

本講演では、オープンサイエンスを巡る社会的動向を踏まえながら、外国語教育研究の今後の在り方について検討したいと思います。オープンサイエンス（open science）とは、社会一般が、容易に、研究成果やそれに付随するデータにアクセスできるようにしようとする動きを指します。2010年代に入り、日本においても、さまざまな学術領域に渡って、オープンサイエンスについて広く議論されるようになりました。しかしながら、外国語教育研究の文脈において、これらに対する議論は、十分に行われてきたとはいえません。その理由としては、いまだオープンサイエンスが確たる定義を持っておらず、流動的な側面を持っていることがあげられます。船守（2017）によると、オープンサイエンスは、大きく3つの観点から考えられます。それぞれ、(1) 研究成果や研究資料の公開・共有、(2) 新たな学術の次元の追求、(3) 社会との協働の3点です。本講演では、上記3つの観点を中心としながら、オープンサイエンスの実体を紐解き、外国語教育研究を文脈においたオープンサイエンスの重要性について、フロアと議論しながら考えていきたいと思っています。

11:40-13:00 昼食

11:40-12:20 ランチョンセミナー 【1階メイン会場（情13教室）】

司会：西尾 由里（名城大学）

リアリーイングリッシュ株式会社

一般社団法人 Global 8

株式会社アルク

株式会社教育測定研究所

13:00-15:15 研究発表・実践報告

(1)13:00-13:30 (2)13:35-14:05 (3)14:10-14:40 (4)14:45-15:15

第1室【1階メイン会場（情13教室）】

司会：柳 善和（名古屋学院大学）

(1) 英文定着における反復シャドーイングの効果—教材難易度・反復回数・ストラテジーの検討

【研究発表】

橋崎 諒太郎（名古屋大学大学院生）

- (2) 英語の言語表現定着における Shadowing の効果及び教材難易度の影響－
中国語を母語とした学習者を対象に 【研究発表】
邢 云・橋崎 諒太郎（名古屋大学大学院生）
- (3) Japanese learners' unnatural use of English in light of cohesion and coherence:
A comparative study on L1 and L2 argumentative essays 【研究発表】
福田 陽子（名古屋大学大学院生）

第2室【2階 情22教室】 司会：小島 ますみ（岐阜市立女子短期大学）

- (1) 第一言語の頻度及び親密度が第二言語語彙学習に与える影響 【研究発表】
寺井 雅人（名古屋大学大学院生）
- (2) 借用語(Loanwords)指導を通じた語彙定着度の検証 【研究発表】
南部 匡彦（国際短期大学）
- (3) 誘出模倣課題で語用論的定型表現知識は測定できるか 【研究発表】
大木 七帆（北海道科学大学）

第3室【2階 情24教室】 司会：中川 右也（鈴鹿高校）

- (1) 部分形状に着目した学習のための日本手話の指文字の新しい類型化 【研究発表】
田中 省作（立命館大学）長谷川 由美（近畿大学）
- (2) 英単語並べ替え問題における学習者の迷い検出を目的とした解答過程データ分析
【研究発表】
坂野 僚亮（静岡大学学生）宮崎 佳典・厨子 光政（静岡大学）
法月 健（静岡産業大学）長谷川 由美（近畿大学）
- (3) スマートフォンを用いた音読指導が学習者に与える影響 【実践報告】
野本 尚美・平塚 紘一郎（仁愛女子短期大学）
- (4) 自己制御英語語彙学習アプリ DoraCAT－フレーズ学習モジュールの開発【研究発表】
田中 洋也（北海学園大学）

15:20－17:00 シンポジウム 【1階 メイン会場（情13教室）】

全体司会：高橋 美由紀（愛知教育大学）

テーマ：「第二言語習得データを用いた学習分析・学習者分析を英語教育に活かす」

司会：白畑 知彦（静岡大学）

外国語の教師であれば誰もが当該言語を能率よく効果的に教えたいと考えているだろう。そして、おそらく、効果的な方法の1つとして、学習者のデータを収集・分析し、彼らの中間言語がどのような特色を持っているかを明らかにし、その研究成果を教育に活かす方法があるのではないだろうか。本シンポジウムでは、日本語を母語とする英語学習者を対象に、3人のパネリストが収集した英語学習データ、そして学習者への明示的指導を基に、当該文法項目には明示的におこなう指導法が有効であるか、また、もし有効ではないのなら、代替としてどのような方法が考えられるのかを発表していただき、そして、英語教育への示唆を提案いただく。その発表内容を基に、フロアの皆さんと議論していきたい。

シンポジスト： 須田 孝司（静岡県立大学）

小川 睦美（日本大学）

近藤 隆子（静岡県立大学）

須田 孝司 「前置詞の習得」

日本語を母語とする英語学習者にとって、前置詞は習得困難な項目の1つであり、そのため様々な指導法が試されてきている。本発表では、to と for について、イメージ化、用法や日本語訳強化の指導を行った結果、学習者にどのような変化が起きたのか報告する。

小川 睦美 「名詞の可算・不可算の習得」

名詞の可算・不可算の区別について、認知言語学の「境界」「個別性」の概念を用いて指導し、その効果を検証した。実際の指導法を紹介し、この指導法を導入する時期、効果を持続させる方法について議論する。

近藤 隆子 「自動詞・他動詞の習得」

英語の自動詞・他動詞の構造について明示的指導を施し、指導に含まれる動詞だけではなく、含まれなかった動詞への指導の波及効果を検証する。具体的に、どのような動詞で学習者が誤りをする傾向にあるか報告する。

17:30－19:30 懇親会 【生協北館】

司会：大瀧 綾乃（静岡大学）

開催校挨拶：宮崎 佳典（静岡大学）

発表概要

第1室【1階 メイン会場 (情13教室)】

- (1) 英文定着における反復シャドーイングの効果—教材難易度・反復回数・ストラテジーの検討 【研究発表】

橋崎 諒太郎 (名古屋大学大学院生)

シャドーイングには、リスニング能力の向上や、新規学習項目が定着する効果があるとされている。例えば、Miyake (2009) では、フレーズシャドーイングの反復により、英語のフレーズが定着する可能性が示唆された。本研究では、シャドーイングの反復により、英語の文章が定着するか検討した。また、素材難易度 (易 vs. 難) とシャドーイング方略の影響も検討した。シャドーイングは、各難易度の文章で 30 回ずつ行い、10 回ごとに再生テストを実施した。その後、質問紙に回答してもらい、1 週間後に遅延事後テストを実施した。結果、反復回数が増えるにつれ再生テストの点数が上昇し、遅延事後テストにおいても定着が残ることが明らかになった。また、再生テストとシャドーイングの再生率 ($r=.45$)、そして、再生テストと意味ストラテジーの間 ($r=.56$) に、有意な相関がみられた。一方、教材難易度の違いによる、再生テストの成績の違いは見られなかった。

- (2) 英語の言語表現定着における Shadowing の効果及び教材難易度の影響—中国語を母語とした学習者を対象に 【研究発表】

邢 云・橋崎 諒太郎 (名古屋大学大学院生)

Shadowing はリスニングの指導方法として研究が行われてきたが、言語表現の定着における効果を検証した研究は多くない。したがって、本研究では、中国語を母語とする 21 名の英語学習者対象に、Shadowing による言語表現の定着及び教材難易度の影響を検討する。Shadowing 教材 (難しい・易しい) は VOA 記事をもとに作成した。実験では、カウンターバランスを取り、それぞれ 6 回ずつシャドーイングを行った。事後テスト、また遅延事後テストとして、文章中のフレーズ先頭 2 語を提示し、その続きを再生するテストを、筆記及び口頭で実施した。筆記テストと口頭テストの得点を従属変数、教材難易度とテスト時期を独立変数とする 2 要因分散分析の結果、両方のテストにおいて、教材とテスト時期の主効果が有意であった。よって、難易度の低い教材において、より言語表現が定着することが明らかになった。発表では、アンケート結果も含め、学習者の熟達度、また教材難易度が言語表現の定着に与える影響をまとめる。

- (3) Japanese learners' unnatural use of English in light of cohesion and coherence:

A comparative study on L1 and L2 argumentative essays 【研究発表】

福田 陽子 (名古屋大学大学院生)

Learners' English often seems to be unnatural, even if the sentences are grammatically correct. Focusing on cohesion and coherence, this study analyzed 1,020 essays written by 112 Japanese learners and 20 native speakers. Based on the framework of Halliday & Hasan (1976), we extracted cohesive devices in the essays and asked three American readers to evaluate the unnaturalness of 100 randomly-chosen essays in light of cohesion and coherence with 5-point Likert scales. The results showed that there were differences between L1 and L2 in terms of the usage of connectives and pronouns. For example, while L2 learners overused "so" and "I" and underused "and" and "it" as cohesive devices, L1 speakers showed the opposite tendencies. It was also revealed that L2 essays were unlikely to have concrete examples or cause-effect relationships. It may be concluded that unnatural use of such cohesive devices and poor coherence should affect

overall essay quality. More concrete examples will be shown and discussed in the presentation.

第2室【2階 情22教室】

(1) 第一言語の頻度及び親密度が第二言語語彙学習に与える影響 【研究発表】

寺井 雅人 (名古屋大学大学院生)

第二言語における語彙習得研究では、対訳である第一言語の具象性が高い場合や同根語である場合、語彙習得が促進されることが報告されている (de Groot & Keijzer, 2000)。換言すると、第二言語における新出語の獲得には、第一言語の特性が影響していると考えられる。しかしながら、先行研究では、英語・オランダ語を対象として、疑似語を用いた検証が行われており、第一言語の特性が第二言語語彙習得に与える影響が考慮できておらず (de Groot & Keijzer, 2000; Tinkham, 1993; 1997)、また、英語・日本語を対象とした類似の研究は少ない。そこで本研究では、日本人英語学習者 28 名を対象に、第二言語の実在語彙の獲得に第一言語の頻度と親密度が影響しているかを相関分析を用いて検証した。その結果、先行研究の結果とは異なり、語彙テストの正答率と第一言語の頻度及び親密度に有意な相関関係は見られなかった (頻度: $r_s = .15$, $p = .34$, 親密度: $r_s = .25$, $p = .11$)。よって、本研究の結果からは、学習者の第一言語の特性は必ずしも第二言語の獲得に影響していない可能性が示唆された。

(2) 借用語 (Loanwords) 指導を通じた語彙定着度の検証 【研究発表】

南部 匡彦 (国際短期大学)

借用語 (Loanwords) は高頻度語彙 3,000 語において、約半数以上を占め (Nambu & Suzuki, 2019)、借用語指導は語彙習得の促進方略として有効だとされているが、借用語の語彙定着度を検証した研究は多くはみられない。そこで本研究では、生起頻度順位 1,000 位ごとの語彙カテゴリからランダムに抽出した借用語 78 語を用いて、私立短期大学 1 年生 76 名を英語熟達度に有意差のない処置群 ($n = 37$) と、対照群 ($n = 39$) に分け、借用語の受容語彙力を測定する Listening と Reading の pre-post-遅延 post テストを実施した。結果、Listening、Reading とともに習熟度上位・下位群ともに借用語の明示的指導は有意に作用し、Reading では上位群の方が下位群よりも語彙定着度が有意に高いことが明らかになった一方、Listening においては上位・下位群の定着度の有意差は見られなかった。以上の結果から、語彙の頻度・親密度・音節数等の特性が技能によって定着度に異なる影響を及ぼす可能性が示唆された。

(3) 誘出模倣課題で語用論的定型表現知識は測定できるか 【研究発表】

大木 七帆 (北海道科学大学)

語用論的定型表現とは特定の文脈で慣習的に使用され、特定の意味や言語機能を持ついくつかの語が連なった単位である (Bardovi-Harlig, 2008)。これまでの研究から、第二言語使用における語用論的定型表現習得の重要性は指摘されているが、レパトリの豊富さ、使用する頻度が学習者にとっての課題である (Bardovi-Harlig, 2019)。本研究は、語用論的定型表現知識測定のための誘出模倣課題の開発及び信頼性・妥当性検証を目的とする。測定対象の抽出には、談話完成課題作成、英語母語話者を参加者とした予備調査を踏まえ、4 つの発話行為からなる 16 の語用論的定型表現を抽出した。さらに発話行為主要行為部の作成、英語母語話者校正を通し、誘出模倣課題を完成させた。本発表では、Roever (2005, 2012) におけるオンライン語用言語学的知識テストを用いた予備調査の結果を報告する。

第3室【2階 情24教室】

(1) 部分形状に着目した学習のための日本手話の指文字の新しい類型化 【研究発表】

田中 省作（立命館大学）長谷川 由美（近畿大学）

手話の指文字は、音声言語のアルファベットに相応し、手話学習の重要な入口の一つでもある。手話では手指動作や形状が類似した表現間で表出や読取の誤りが起こりやすいことが教育現場でよくいわれる。それは指文字でも同様に起こるようである。そこで本研究は、日本手話学習者の指文字の誤りを分析し、指文字の学習の際に学習者が留意すべき指文字間の形状的關係を明示することを目指した。本研究では動きのない41指文字を対象とし、手指形状を7つの特徴（掌の向き、手の向き、各指の情報）でとらえている。初学者の指文字の誤りを観察すると、手指の特徴の一部が捨象された際に形状が類似するような関係（部分的形状類似）の指文字間で誤りが多く現れる。そこで、誤りから捨象されやすい特徴を推定し、その下での部分的形状類似に基づいた指文字間のクラスタを得、手話教育担当者の精査を経て、学習時に留意すべき指文字の類型を与えた。

(2) 英単語並べ替え問題における学習者の迷い検出を目的とした解答過程データ分析

【研究発表】

坂野 僚亮（静岡大学学生）宮崎 佳典・厨子 光政（静岡大学）

法月 健（静岡産業大学）長谷川 由美（近畿大学）

英単語並べ替え問題を紙面上で解く際、解答から得られる情報は並べ替え後の単語列のみである。一方、我々が開発するシステムでは、学習者はマウスを用いて解答を行い、解答過程の各種情報を取得することが可能である。軌跡情報からは解答時間、移動距離、ドラッグ&ドロップ回数、Uターン回数、単語のグループ化の実施回数等を計算・記録している。実験時には、解答時に迷った単語を申告させるモジュールも追加し、一連のデータに対して機械学習を適用することで学習者の解答中の迷いを推測する。迷いを検出できれば、例えば正解したが自信がないケースなど、実のところ指導が必要な問題や学習者の早期発見に繋がる。本発表ではこれまで主として行ってきた“誰がどの問題を解答中に迷いが発生したか”を問う、問題単位における迷い検出に加え、問題中の単語単位における迷いと各種パラメータとの関連について分析を試みる。また、過去の複数大学における実験結果に対して、迷い予測に寄与するパラメータや精度について比較・考察を与える。

(3) スマートフォンを用いた音読指導が学習者に与える影響

【実践報告】

野本 尚美・平塚 紘一郎（仁愛女子短期大学）

音読活動を効果的に実施するためには、テキストの内容理解などの認知的側面だけでなく、音読を行う際に学習者が感じる不安を軽減させるといった情意的側面にも配慮することが重要である（竹内, 2018）。本研究では、スマートフォンを用いた個別音読指導を行うことで、学習者の音読に対する意識がどのように変化するかを女子短期大学生55名を対象として調査した。まず、自身が教科書の英文を音読している様子をスマートフォンのカメラを用いて撮影させた。その動画を Moodle 上に提出させ、教員が個別にフィードバックを書き込むという指導を半期に3回実施した。アンケートにおいて「英語を声に出して読むのは好きか」との問いに対し、「とても好き」（5点）から「とても嫌い」（1点）までの5段階で答えさせた。指導前と指導後の平均値に差が見られるかについて t 検定を行ったところ、指導後の平均値の方が有意に高かった ($t(54) = 6.324, p < .01, r = 0.65$)。この結果から、本研究で用いた個別音読指導により、英語を音読することについて学習者が肯定的に捉えることができる可能性が示唆された。

(4) 自己制御英語語彙学習アプリ DoraCAT—フレーズ学習モジュールの開発【研究発表】

田中 洋也（北海学園大学）

発表者はこれまで単語単位で自己制御学習を行うモバイルアプリ DoraCAT を開発、運用してきた。DoraCAT はコンピュータ適応型診断テストを行い、学習目標語を選択、その練習によって知識定着を目指すシステムである。これまでの DoraCAT では、単語単位の学習に限定されていたため、新たに複数語によるフレーズ学習モジュールを開発した。暫定データとして実用英語技能検定® 1～5 級の見出し語句 2057 項目を級、出題頻度情報に基づいた 10 レベルで使用した。フレーズ版では、最初に Yes/No 形式でのレベル診断を行い、診断結果およびサジェスト機能により学習項目の選定を行う。引き続き、カードによる学習、Yes/No 形式診断、空所補充問題での練習を行う。発表では、フレーズ学習モジュールを付与した DoraCAT の基本機能を紹介するとともに、他のシステムと学習履歴を共有することによる応用可能性について検討する。

賛助会員展示

リアリーイングリッシュ株式会社 <https://www.reallyenglish.co.jp/>

一般社団法人 G l o b a l 8 <http://global8.or.jp/>

株式会社エル・インターフェース <https://www.supereigo.com>

株式会社アルク www.alc.co.jp

株式会社教育測定研究所 <https://www.jiem.co.jp/>

チエル株式会社 <https://www.chieru.co.jp>

昼食

当日、生協南館が営業しておりますので、ご利用できます。会場周辺ではコンビニ、及び、飲食店が数店舗営業しておりますが、会場の建物からは離れております。

懇親会

- 時間：17:30～19:30
- 参加費：一般会員 3,500 円、学生会員 3,000 円（飲み物代含む）
- 場所：静岡大学浜松キャンパス生協北館
- 参加されます方は、以下 URL の予約フォームより、11 月 27 日（水）までにお申し込みください。
http://bit.ly/LETC2019F_party
- 当日参加につきましては受付でご確認ください。
- 懇親会にご参加されます方は、受付へお集まりください。

大会会場アクセス

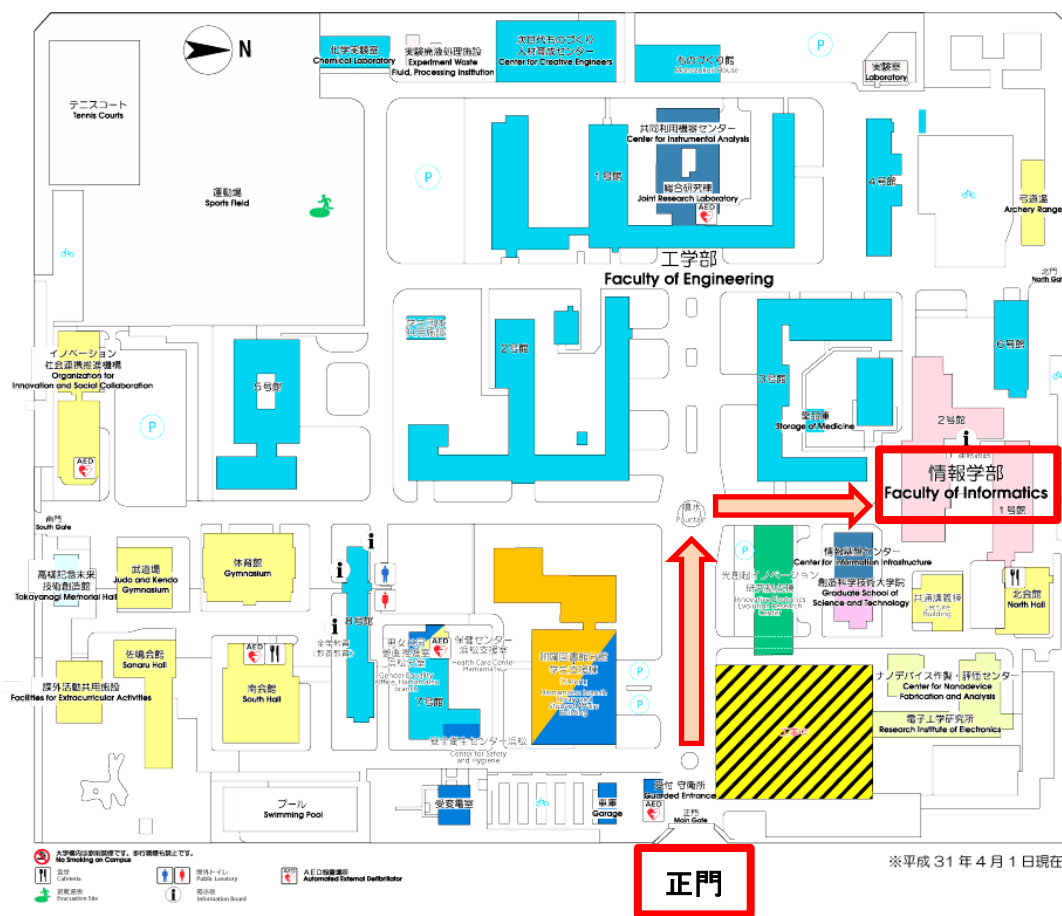
公共交通機関をお使いください。

- ◆遠鉄バスのりば JR 東海浜松駅前北口バスターミナル 15,16 番のりばから 全路線「静岡大学」下車
(所要時間約 20 分、1 時間に 10 本程度運行)

浜松キャンパスアクセスマップ



浜松キャンパスマップ



大会参加のご案内

- 会員の方の参加は無料です（ご参加までに、年会費をご納入ください）。
- 非会員の方は当日会員参加費 1,000 円を受付にてお払いください。

新規ご入会案内

LET 会員として入会手続きをしていただきますと、当日会員参加費分の金額が、年会費から割引されます。会員になられますと、LET 全国研究大会、支部研究大会（年 2 回）での研究発表、実践報告、紀要への投稿などをしていただくことができます。

- 当日会員参加費として 1,000 円をお支払い下さい。
- LET 本部サイトにて入会登録をしてください（仮会員）。
- 仮会員になられましたら、後日、年会費をご請求申し上げます（お支払いいただいた当日会員参加費 1,000 円を割引きます）。
- 年会費をお支払いいただきますと、正会員になります（3 ヶ月以内にお手続きをお願いします）。

会員登録、会員情報の更新はこちらから

LET 本部サイト：<https://www.j-let.org/>